

情報学委員会 デジタル社会を支える安全安心技術分科会（第 25 期・第 2 回）

議事要旨

日時：令和 3 年 3 月 31 日（水）10:00～12:00

場所：Zoom による遠隔会議

出席者（敬称略）：岩村、木村、佐古、佐藤、澤、柴山、高木、高田、中尾、松浦、馬奈木、宮地、安浦

配布資料：

資料 2-1 デジタル社会を支える安全安心技術 2 回目.pdf

冒頭、委員長から前回の議論の要点、とくに、提言を目指す流れが紹介された。

1. 提言にむけて

以下の 2 件の話題提供が行われた。標準化、異なるステークホルダーのインセンティブ、データの信頼性、匿名化、合意形成、法的観点、評価尺度、技術だけでは普及しない安心感、社会実装に向けたプロシージャなどに関して、質疑が行われた。

1-1. 木村 通男 氏（浜松医科大学医療情報部・教授 第二部会員）

「患者情報の実態—使える形なのは何か？真実が書かれているのは何か？」

1-2. 馬奈木 俊介 氏（九州大学大学院工学研究院・教授 第一部会員）

「デジタル社会における社会課題の解決例：国連・新国富指標（inclusive wealth index）の活用」

2. 全体議論

現在の法整備状況を踏まえた実装の観点や、他の具体的な事例、地域連携の多

様化などに関して、総合的な討論が行われた。

3. 今後の話題提供について

次回の話題提供の一つは、澤委員にお願いすることとした。もう一つについては、教育データに関する議論、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の事例、インセンティブ設計（経済学）を候補として選定することとした。

4. 次回の会議予定

計画通り、2021年7月（あるいは6月）を候補として日程調整する。

5. その他

5-1. 研究倫理に関して、4月5日に秋山氏のヒアリングをするので、興味がある委員には是非参加登録をお願いしたい。タスクフォース的に進める。教育のデジタル化と関連した倫理の問題を含めることも検討したい。

5-2. 定足数の確認：委員14名中13名が出席し、定足数が満たされたことを確認した。

以上